

分科会 61

東京下町から山の手へ
～てんぷら油バスで節電の町東京を走るナイトツアー～体感
する

交流会終了後、両国国技館前からバスで出発

日時 11月12日(土) 19:30～21:45

参加者 32人

出演者

吉岐 若子さん (有限会社リボン<エコツーリズム・ネットワーク>)
さとう みかさん (ボランティアスタッフ)

1 概要

学校給食や家庭で使用された廃食油を回収・リサイクルした燃料「BDF (バイオディーゼルフューエル)」100%で走る観光バス、通称「てんぷらバス」は、移動中に排出される二酸化炭素を大幅に削減する上、「BDF」は植物性の燃料なのでカーボンニュートラル。二酸化炭素±0のエコバス「てんぷらバス」で、震災後、節電の街と変わった夜の東京を走った。

杉並区の障がい者が主体となり、資源循環型社会の一旦を担い地域貢献を果たしていくことを目的とした社会福祉法人「いたるセンター」阿佐ヶ谷生活園が食用廃油を回収し、「BDF」に精製し燃料としてバスツアーに供給されており、映像を見ながら農村交流・被災地支援のお話しも聞けるエコバスツアーとなった。

2 主な内容

当日キャンセルはあったものの、当日受付の場でお申込みも何人かあり、ほぼ満員で国技館前より、「BDF」で走る「てんぷらバス」に乗り込み、時間通りに出発した。本日出演予定であった吉岐 健一郎さんは都合により欠席の為、奥さまであり、リボンマネージャーの吉岐若子さんとボランティアで活動を手伝っているサトウミカさんの出演となった。

早々に出発すると、てんぷらバスについての説明を聞きながら、建設中のスカイツリーを目指した。バスを路肩に停車し、完成時には634mになるスカイツリーは、バスの中からでは全景は見えないほど大きかった。また建設途中の為、暗くて良く見えなかったが、東京出身の参加者が少ないバスツアーであったため、皆さん熱心に見上げていた。スカイツリー自体も照明にはLEDを使用するなど、エコに配慮している。その後は高速に乗りベイブリッジを見ながら東京タワーへ向かった。

以前に比べ大分明るさを取り戻している高速から見た夜景はとても美しかったが、実際、LEDに変えるなど、震災がきっかけとなって節電に取り組む姿勢は変わってきている。バスの移動中にはリボン・エコツーリズムネットワークの活動のDVDを見ながら説明を聞いた。3月11日の震災の時も石油・ガソリンがなくても走れるてんぷらバスのおかげで、すぐに現地にボランティアへ行くことができ、捨てるものはないと実感したそう。また日頃から都市農村交流で求めている者同士をつなぐネットワークのコーディネートをしていた関係もあり、震災時もそのつながりから早い時期に現地へ活動に入り、泥かきなどの他、学習用品の洗浄などの支援をした様子や、最近仮設住宅に入られた方々が引きこもり、孤独にならないように「ライフカフェ」のボランティアに行き、参加者手作りのお菓子や飲み物を提供するなど交流する様子を映像で見ながら報告を聞いた。

クリスマスの電飾の美しい東京タワーに到着。東京タワーにはアースデイ東京タワーの事務局があり、震災後のボランティアバスの出発地にもなっていた。その場所を全員で見学後、15分程の自由行動。

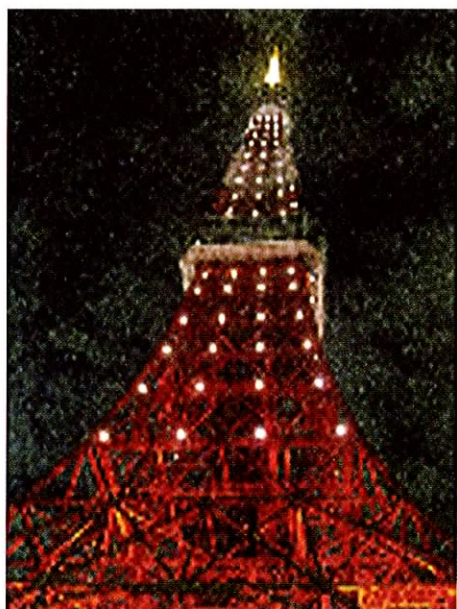
その後、再度乗車し、エコツーリズムのツアーの様子のDVDを見ながら、東京駅を経由し10数名が下車、それ以外の方は国技館前に到着後、解散となった。



案内を聞きながら東京の街並みを見学



スカイツリーを見上げる参加者の方々



東京タワーも見学